

# 同和教育の 深化をめざして

## 私達と同和問題

秋芳町立秋芳北中学校第三学年

岡 史 恵

「お願いします。」  
いつもと変わらぬあいさつ  
が始まった社会科の授業。そ  
の日からの授業内容は、同和  
問題についてというものでっ  
た。

同和教育、同和問題だのと  
同和と名のつく言葉を私達は  
よく耳にする。そして、その  
日、先生が「部落差別」とい  
う言葉を口にされた時、私の  
脳裏に、ある情景が浮かんだ。  
それは私が始めて部落差別を  
知った日の事だった。

確か、私が小学校五年の時  
だった。私の祖母と母が居間  
でこんな話をしていた。  
「つい最近、けんかがあっ  
たらしいよ。酔っぱらいが部  
落の人に部落がどうのこうの  
と文句をつけたらしくってね。」  
そんな話だった。私にはよ  
く内容がのみ込めず母にしつ  
こく尋ねた。すると母は少し  
ため息がちに話してくれた。

現在、差別が行われているこ  
と。そして、それがどんなも  
のであるかについても。  
私は、だんだんと理解して  
くるにつれ、さっきまでの祖  
母や母に対して腹が立ってき  
た。そして悲しかった。その  
時の私には、部落差別を簡単  
に口にしてしまう事自体、差  
別する事になるような気がし  
たのだ。もし、誰もが口  
にしなければ決して差別など  
広がらないだろうと考えたの  
だった。また、私の友人が部  
落といわれる所に住んでいる  
事にも気が付いた。私はとっ  
さに、そのことが誰にも知ら  
れないようにと思った。もし  
も、母が話してくれたような  
差別を受けるのならあんまり  
だ。自分自身には何一つ責任  
はないのに、ただそこに生ま  
れたというだけで差別される  
なんて……。私には堪えがた  
いことだった。

そんな事を思い出しながら  
授業を聞いていた。江戸時代  
初期に差別が作られたこと。  
差別された人々は、人間らし  
く生きようとする権利はうば  
われ、苦しい生活の上につき  
しい身分差別をうけたこと。  
それが現代の世の中にも残っ  
ている。しかし、私には実感  
としてわいてこなかった。私  
にとつて別世界、いや遠い過  
去のことなのだ。

それが実感としてとらえら  
れるようになったのは、私が  
部落差別について書かれてあ  
る一冊の本を読んでからだっ  
た。

「Nちゃん、勉強してもわ  
れわれはあかんのやで。絶対  
に偉いもんになれんことわか  
りきってるやしな。恋愛はで  
きっこないし、やはり運命の  
子やな。」  
「勉強したらなんであかん  
、なんで恋愛できないこと

あるの、だいたい男のくせに  
意気地なしや、あんたらは……。」

これはこの本の一部にすぎ  
ないが、私の心にいいようの  
ない波紋を投げかけた。自分  
は同和地区出身だと知り、あ  
きらめる青年、そしてそれに  
反発する少女、口では言い表  
わせない重苦しい空気が、そ  
こにあるように思う。

私は、今までも部落差別  
が残っていることに批判的な  
考えを強く持っていたし、早  
く差別をなくしたい気持ちで  
いっぱいだった。しかし、こ  
の一冊の本で私の未熟さ愚か  
さに気付いたのだ。私は  
まだ無力だ、何一つできやし  
ない。部落の事だつてどれだ  
け知っていたというのだろう。  
私は同和問題の大きさに改め  
て脅威を感じた。

「遠くの出来事には人は優  
しい。近くの出来事には人は  
黙り込む。遠くのでき事に人  
は美しく怒る……。」こんな  
詩があった。人は皆、無関係  
であれば涙を流し、やさしい  
言葉をかけ差別などもつての  
ほかと怒るだろう。しかし、  
いざ自分の事となるとそうで  
はなくなる。つきあひも避け  
結婚も認めなくなり、就職さ  
えも拒んでしまう。私達は自  
分本位で物事を考えず、の

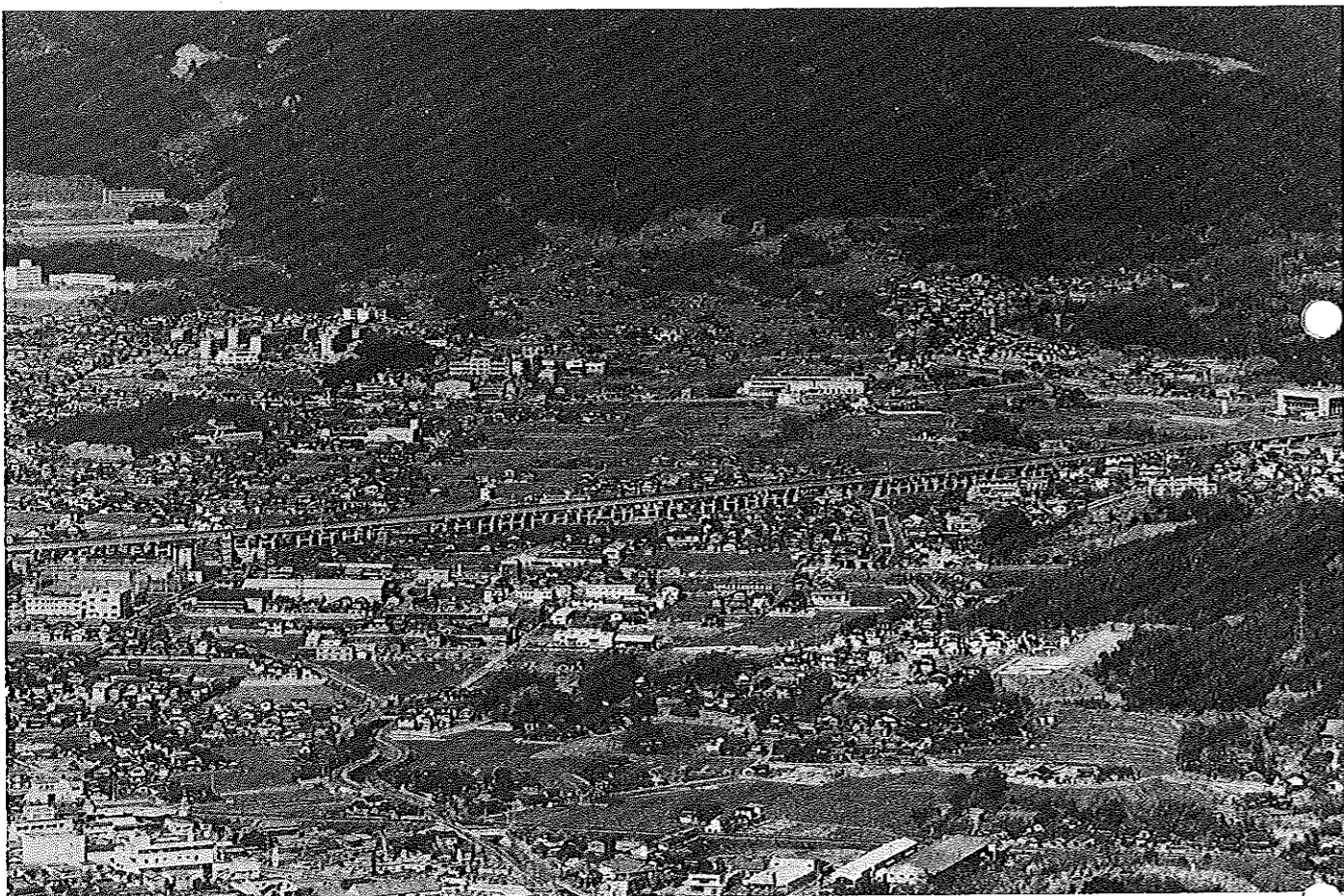
だと思ふ。これではいつまで  
も差別はなくならないだろう。  
「遠くの出来事に立ち向う  
のは遠くの人で、近くのでき  
ごとに立ち向うのは近くの私  
達」授業で同和問題について  
学び、今まで部落の人達に投  
げかけられてきた数々の差別  
に驚き深い憤りを感じた私、  
しかし、そんな私に大人達は  
「いや子供の考えるような単  
純な話じゃない。現実はその  
なに甘いもんじゃな。」と  
近頃の事に自らが立ち向かっ  
ていこうとする事の方が大切  
だと思ふ。微力な私達をとり  
まわすような表情に、私は何  
とも言えぬもどかしさを感じ  
る。そうではないかといいた  
のだが、私にはそれをくつが  
えし、大人達に対抗するだけ  
の力がないのだ。私に社会の  
しくみはわからない。深い霧  
に覆われた、そんな世界に一  
歩でも踏みだそうものなら、

「昭和五十五年同和对策推進強調旬間特選作文」

みんなの社会 みんなが作る

部落差別のない社会

(昭和五十五年同和对策推進強調旬間特選作文)



# 久米 遠望

—緑と文化と活力にみちたまちづくりをめざして—

久米地区の人口と世帯数  
56年2月末現在

	男	女	計	世帯数
56年2月末	4,601	4,399	9,000	3,020
去年同期	4,458	4,228	8,686	2,900
増減	+143	+171	+314	+120

### 公民館の活用を

久米公民館 河村義美  
新しい公民館が完  
成して早くも一年  
が過ぎようとしてい  
ます。この間、はた  
して地域の皆様方  
ご期待にそい得た  
でしょうか。

幸い、最近では殊  
んど連日何らかの集會や、研  
修、講座等がもたれ、ミニ函  
書館としての公民館文庫の開  
設、更には、旧館における球  
技、武道等巾ひろく多方面で  
ご利用されています。  
この様なことは、支所に併  
設された形の旧館の時代には  
見られなかったことでありま  
して、公民館を主体とした新  
館の姿の中でこそ初めて達成  
されたものと考えられます。  
また、その活動につきまし  
ても、各自主団体の中心が支  
所にあるかの感じの、行政依  
存形の面がなかったとも云い  
きれませんが、今では館内事  
務局の整備等により、皆なの  
ものとしての地域活動が、力  
強く押し進められています。  
今後共、地方の時代にふさ  
わしい豊かで住みよく文化の  
かおり高いふるさとづくりが望  
まれますが、このよりよき結  
びつきの場、行動の場として  
ご活用戴きたいと存じます。

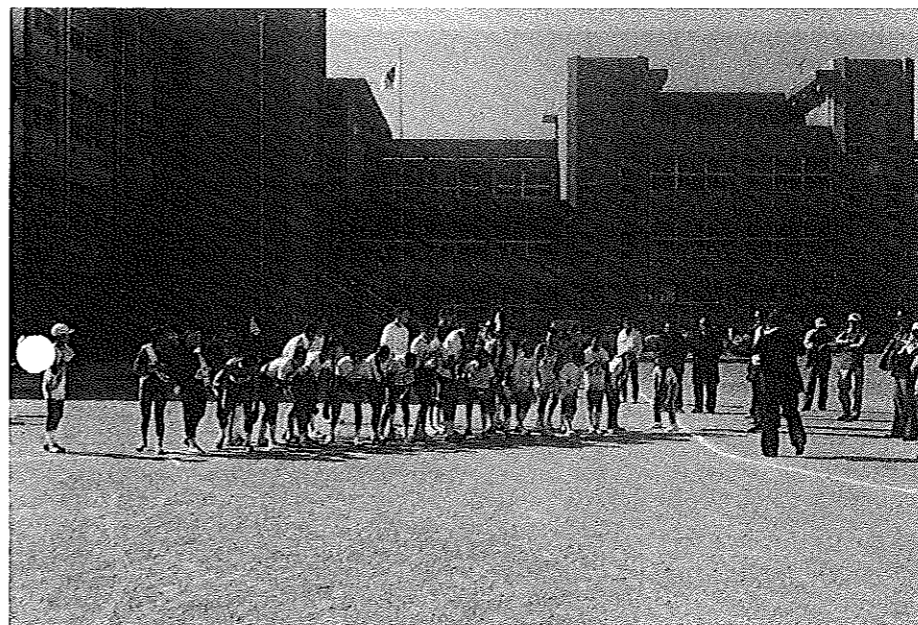
# 久米地区 駅伝大会

久米地区駅伝大会は、昭和四十二年二月十一日、建国記念の日の最初の祝日に体育振興会主催のもとに誕生したものです。今年で十五回目を迎えました。久米地区のすばらしい郷土愛と情熱により継続され、年中行事として地域に定着しています。

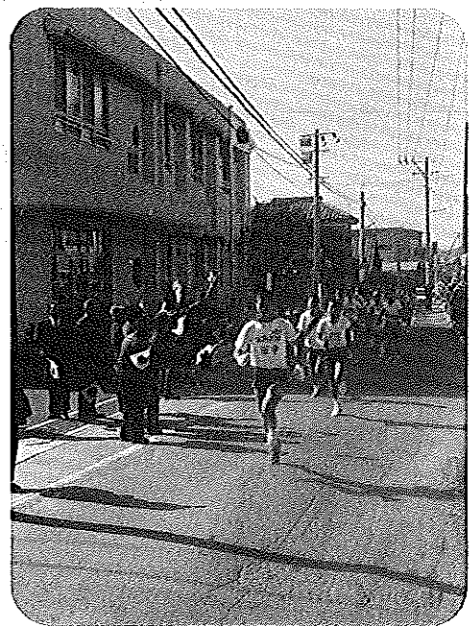
今年の大会は、参加チームが今までになく多く、A地区対抗V14チーム、AオープンV7チーム、A完走V6名、成績は次のとおりでした。

- △地区対抗V
- 一位 老郷地A チーム
  - 二〃 田中
  - 三〃 ひばりヶ丘
- 以下、老郷地B、旭ヶ丘西、老郷地C、寺下高田団地、旭ヶ丘東住一、下須川末広町、西久米、老郷地D、坂本、中通り、北部チーム。

- △オープンV
- 一位 少年野球五年チーム
  - 二〃 〃 四年
  - 三〃 ミニバスケット
- 以下、共楽園男A、同男B、同女A、同女Bチーム
- △完走V
- 一位 広崎義久(高一)
  - 二〃 中元和彦(中一)
  - 三〃 柏直樹(〃)
- 以下、越後修二、岩田政文、高田正二。



スタート前おちついて



シャ がんばっていろいろ

## 駅伝大会に参加して

### △ミニバスケットチームV

重村 淳子

建国記念の日の行事の一つである久米地区駅伝大会にミニバスケットクラブから、十一人参加しました。私にとっては初めての出場なので、期待と不安で胸がいっぱいでした。しかし、東会長が「勝敗を気にせず、力いっぱい走れよ。」といわれたので、自分の力を十分に発揮することができました。まずまずの成績でしたが、クラブ員が力をあわせた結果だとみんなで喜び合いました。

### △下須川末広町チームV

小林 絹

駅伝大会に、どうしたと大変よい思い出になった。

## 体育振興会 行事結果報告

- ◎ママさんバレーボール
- 5/18 全国家庭婦人東部予選大会 Aチーム優勝
- 5/25 第一回徳山市家庭婦人選手権大会 Aチーム優勝
- 6/16 全国家庭婦人決勝大会 Aチーム三位
- 8/10 第一回徳山市ママさん大会 老郷地・旭ヶ丘各チーム優勝、ひばりヶ丘二位
- 8/17 県体育大会 Aチーム優勝
- 9/14 市協会長杯大会 優勝
- 10/10 市民体育大会 Aクラス優勝
- 11/3 初紅葉杯大会 Aチーム優勝
- 11/19 市リーグ戦 Aチーム二位 Bチーム七位
- 11/23 第一回会長杯大会 Aチーム二位、Bチーム優勝
- ◎バドミントン
- 4/20 市協会結成記念大会 女W A三位、男W B三位
- 5/18 久米小体育館落成記念大会 参加58名 招待選手6名
- 6/29 市協会々長杯大会 男W B優勝、女W C三位
- 9/14 第一回地区大会 田中チーム優勝、久米市チーム二位
- 10/12 全国家庭婦人予選大会 植野選手優勝
- 12/21 地区年忘れ大会 参加68名
- 1/15 市協会選手権大会 女W A優勝、女W B、勝
- 2/15 市民大会 女W A二位

## 資源ゴミ回収で実益と コミュニティづくりを

久米地区回収実績 (55/4 ~ 56/2 365,033円)

### 徳山市で第2位



三星地区子ども会

### 久米地区実施団体名

- ・高田団地自治会
- ・老郷地下子ども会
- ・北部地区
- ・田中西
- ・田中東
- ・旭ヶ丘東住一
- ・旭ヶ丘東住二
- ・旭ヶ丘中央
- ・旭ヶ丘西
- ・旭ヶ丘南子ども会
- ・三星地区
- ・末広町
- ・清水
- ・中通り
- ・下須川
- ・ひばりヶ丘
- ・久米小譲羽分校教育会

### 単位自治会だより

#### 田中東自治会 藤本宅見

田中東自治会では親睦と明るい健全なる地域社会の推進を図る目的の一環として今日恒例となった次の行事を行っている。

- 一、一月 どんと焼き
- 一月十五日各家庭の飾りを持ち寄りどんと焼きを行う。
- 二、七月 海水浴

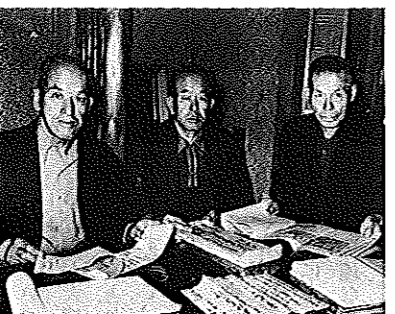


交通安全地蔵の安置 (田中東)

その他年二回の排水溝の大掃除と廃品回収を行い、体育行事には積極的に参加している。

#### 老郷地上自治会 高橋貞彦

江戸時代から昭和十年過ぎまでは、約六十戸の農家が散在していた老郷地も、今では百五十戸の大世帯になった。



老郷地郷土史の編集委員

地域内には大学、高専ができて、また住宅団地が造成され、私たちのふるさとが刻一刻と姿を変え、昔の面影や文化が今にも消え去ろうとしている。誰でも自分が住んでいる土地には愛着を感じ、また誇りを持ちたい気持ちがある。そのためには郷土の歴史を正しく知り、郷土を見直すことが必要であろう。このような観点から、後世への伝承資料になればと考えて編集したのが、老郷地郷土誌である。

## おしゃべりを楽しんでいきます

### 読書会 柏 幾子

読書の秋たけなわの昨年十一月下旬、久米公民館で初めての読書会が開かれた。婦人会や久米小育友会読書部の呼びかけで集まったお母さん達が出席者である。

毎月、第一金曜日、十時から十二時まで。講師に市立図書館の田辺先生を招いての読書会である。人生経験豊かでしかも詩人でもある講師を中心に子育て真直中の若いお母

さん、反抗期の難かしい世代の子を持つ中年のお母さん、立派に子育てを卒業して趣味にボランティアにと張りきっておられるお母さん達が一冊の本を通して読後感を語り合う二時間は実に楽しい。

「虚構の家」「狂いだすのは三月」「夢は枯野を」を読んだ。私にとって、読書会の利点は言えば、テキストとあれば否応もなく読むことで、読書の幅が広がったことである。一冊、一冊と積みあげて心の糧にした。

### 編集後記

旧公民館の二階で子ども達の体操する音で眠気をさましたのが昨日のことのようです。公民館や体育館が新しくなり、人口も、櫛ヶ浜や鹿野町をはるかに上回るなど、我がまち「久米」はますます発展することでしょう。しかし一方では、世間を騒がしている青少年の非行や校内暴力等の心の問題は他人事とばかりいっておれません。温かい思いやりのある住みよい町づくりのためのご意見、ご投稿をおまちしています。